ＪＲ東海労 大二運分会	交差点	No. 289 2011 年　1 月 31 日 責任者：高原弘幸 発　行：教 宣 部

「仕事を終えた乗務員」に対して 乗務・再泊を命じる会社は正常か！？

乗務員と乗客の安全よりも「儲け」優先の姿勢はおかしい！

昨年１２月１２日、三島駅で発生した触車人身事故により新幹線のダイヤが終日まで大幅に乱れました。これにより、大幅な列車遅延と乗務員が担当する列車変更が発生しました。

昨年のこととは言え、当日乗務した乗務員の皆さんは、長時間に及ぶ運転や旅客の対応におわれ大変な疲労となったことと思います。

このような大幅な列車遅延はこれまでも何度も発生しておりその都度、乗務時間や拘束時間の対応にさまざまな問題が発生してきました。そして今回、職場に貼られた会社掲示「**輸送障害対応12/12（日）たいへんお疲れ様でした**」と題した掲示により、乗務員の運用に対して「**既に仕事を終えた当日非番の乗務員にも多く待機及び乗務を依頼し、中には非番乗務で22時を越えて帰所してくる乗務員がいたり、そのまま東京に上って再泊となる乗務員もいました。**」とする「異常な対応」がことが明らかになりました。最後には「**ご苦労があったと思います。**」とまた、その乗務を命じられた社員に対して「**感謝いたします**」と結んでいます。

こんな紙面一枚で再度、乗務・宿泊した乗務員が納得できるでしょうか。労働時間のカウントだけが乗務員に報いる行為だと思ってるのではないでしょうか。

このときは無事故で終わっていますが、当事者はかなりの疲労の中で乗務したことは想像が出来ます。この会社の行為は、何が何でも列車を走らせ儲けを優先させて安全をないがしろにした行為です。そのためには乗務員の健康や乗客の生命を無視してでも走らせるという間違った判断があったことは、事実が証明しているのです。

その原因は列車を担当する乗務員が元々足りないことが背景としてあるのです。職場では今も尚、社員の承諾もない「一方的な休日出勤」が強要され続けていますし、体調不良で休むときにも電話だけでは管理者に疑われるので体調が悪い姿で一旦職場に出てくる若い社員もいます。掲示の「感謝します」だけで終わらせていては、このような異常な対応が繰り返させてしまいます。私たちは今後このような、「再度、東京まで乗務させる」ような命令をしない対応を求めます。

私たちは、会社に対し職場の要員確保を求め、
「一方的な休日出勤」を中止するよう求める！